

ホームでもアウェイでもないフェアな場所



生活者として暮らすムスリムの
ための日本語講座の実践から
見たこと

深江 新太郎 妹川幸代

問題意識

- 日本の地域社会で共生するために

ムスリムはこれらの制約を日本人に伝えていく
必要がある

⇒ 日本語が必要

実践研究

- 講座風景



福岡市東区
サニー

問題意識

- 宗教上の制約？

食に関する制約 : 豚肉だけでなく動物性の食品

衣に関する制約 : 出してはいけない部位

礼に関する制約 : 1日5回の礼拝、男性は毎週

金曜日のお昼に集まる

実践研究

- ムスリムのためのサバイバル日本語 講座

平成23年度文化庁委託事業
「生活者としての」外国人のための日本語教育事業

統括責任: 深江 新太郎
授業デザイン: 妹川 幸代

実践研究

- ムスリムが抱える制約

～ ムスリムと実際に対話して見えたこと

・行きたいところに行けない

・食べたいものが食べられない

・住みたいところに住めない

実践研究

- 行きたいところに行けない

美容室 : 男性の目に触れるから (女性)

病院 : 女性のお医者さんだけ (女性)

交通機関 : 込み合って男性と触れるから

(女性)

実践研究

- 講座の概要

期間: 平成23年9月26日～平成23年12月16日

時間: 68時間

対象: 成人ムスリム

国籍: インドネシア、マレーシア、バングラデシュ

エジプト、シリア、モロッコ

受講生数: 15名 (女性9名、男性6名)

問題意識

- イスラム教徒と日本社会の異文化共生

福岡市で暮らすイスラム教徒 (以下、ムスリム)
ー 現在: 約1000名 (福岡モスクの調査)

ムスリムは宗教上の制約から限られた範囲
でしか生活できない

実践研究

- 講座の特色

ムスリムが直面する生活上の困難な場面を
インタビュー調査により抽出

⇒ 場面・トピックシラバスを作成



親子のふれあいの日本語教育プログラム

親子のふれあいの日本語教育プログラム



ホームでもアウェイでもないフェアな場所

生活者として暮らすムスリムのための日本語講座の開催から見たこと

第2回 第1期 第1回

3 愛和外語学院

問題意識

日本の地域社会で共生するために

ムスリムはこれらの制約を日本人に伝えていく必要がある

日本語が必要

問題意識

宗教上の制約？

食に関する制約：豚肉だけでなく動物性の食品

衣に関する制約：出していない部位

礼に関する制約：マナー、マナー、マナー

実践研究

ムスリムが抱える事

ムスリム

行きたいところ

食べたいもの

住みたいところ

実践研究

行きたいところに行け

美容室 男性の

病院 女性の

交通機関 込み合

エリカとしまと
ネットワーク

教育プログラム

エリカとしまと
ネットワーク

エリカとしまと
ネットワーク



エリカとしまと
ネットワーク

3 愛和外語学院

ホームでもアウェイでもないフェアな場所

生活者として暮らすための
ための社会環境の実現から
考えること

問題意識

日本の地域社会で生きるために

ムスリムはこれらの制約を日本人に比べていく
必要がある

※ 日本語が必要

実践研究

実践報告

ムスリム
でした

問題意識

食に関する制約 豚肉だけでなく動物性
衣に関する制約 出たてはいいけど
礼に関する制約 1日5回の礼拝 男性は

実践研究

ムスリムのためのマナーガイド

平成20年度文化庁委託事業
「生活者としての外国人」外国人の